

五 典 考

松 下 忠

項 目

- 一、問題提示
- 二、三種の解釋
- 三、二說（左傳說と孟子說）の對立
- 四、二說の論據
- 五、右の批判
- 六、問題解決案
- 1、康 誥
- 2、大戴禮記
- 3、統合類型の發生
- 4、天敘有典
- 一、問題提示

此の研究發表題目は、卒業論文儒教に於ける五倫說中の一節である。抑々五倫說と稱する場合には、五つと云ふが如き、或體系的構成を先決的必要條件とする。個々に説かれたものでは五倫說と云ふが如き辨倫說は成立せぬ。五倫說

は孤立的個別的道德説ではなくして、體系的道德説でなければ、五倫説として位置を與へしめる事は出来ぬ。扱五倫説の最初に經典に見えたのは尙書舜典を以て嚆矢とする。曰く、

愼徽五典、五典克從。

又曰く、

帝曰、契、百姓不親、五品不遜、汝作司徒、敬敷五教、在寬。

又皋陶謨に曰く、

天敍有典、勅我五典、五惇哉。

或は五典と云ひ、或は五品と云ひ、五教と云ふ。後世五品と五典五教とを區別する者も多い。概言すれば五品は人倫關係の目であり、五典五教は其の道であり、自ら差別ありとするのである。五教は五品の遜順ならざるを正す所以なれば五品と五教とを區別し、五教を以て五品に對する教と見るのは嚴密なる意味で至當である。さりながら五倫の名義（別章）に於て既に言及せる如く、散すれば自ら別義、通すれば同義と見て可なるものである。

扱此の五典と云ひ五教と云ひ、人倫道德を示したものに相違ないが、其の内容意義即ち徳目の如何に就いては明示されてゐない爲に、古來之を解して三説が行はれ、今に至るまで對立の狀況にあり、歸一する所が無い。五倫説の濫觴として重要な位置を占める五典の内容を闡明する事は五倫説の研究に於て先づ着手すべき問題である。

二、三種の解釋

第一は、左傳文公十八年に見えた説

季文子使太史克對曰、……舜臣堯、……舉八元、使布五教于四方、父義母慈兄友弟恭子孝、內平外成。であり、五品を父母兄弟子とし、五教を義慈友恭孝とする。

第二は、孟子滕文公上篇に見えた説

人之有道也、飽食煖衣、逸居而無教、則近於禽獸、聖人有憂之、使契爲司徒、教以人倫、父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信。

であり、五品を以て父子・君臣・夫婦・長幼・朋友とし、五教を親・義・別・序・信とする。

第三は、陳喬樞の説で、その著、「今文尙書經說攷二」に於て、臯陶謨の五典を解して、典常也、敕我五典、謂五常也、五常卽五性、白虎情性篇曰、五常者何、仁義禮智信也。

と云ひ、五典を以て後の所謂五常—仁義禮智信—なりとしてゐる。

右三説に就いて考ふるに、第三説は、

(一)五常の説は戰國を經、漢初に完成したとするのが學界の定論であり、

(二)書經を以て書經を解すれば、臯陶謨の五典は舜典の五典と同一視すべきものであり、五品の遜順ならざるを正す教であるから、仁義禮智信と見る事は適當ではない。

との理由で従ふべからざる事明かであり、一家言に過ぎず、省略して可なるものである。従つて五典の解釋は第一左傳の説、第二孟子の説に限定せられる。

三、二説の對立

後世五典を解するにこの二説が對立して歸一する所がない。左に表示する。

時	代	先	秦
〔第一説〕	父義母慈兄友弟恭子孝。	(1) 左傳文公十八年の説	(前出)
〔第二説〕	父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信。	(1) 孟子の説	(前出)

	唐	漢
	<p>(1) 孔穎達 此五典、與下文五品五教、其事一也、一家之內、品有五、謂父母兄弟子也、教此五者、各以一事、教父以義、教母以慈、教兄以友、教弟以恭、教子以孝、是爲五教也。(尙書正義舜典)</p>	<p>(1) 孔安國 五典、五常之教、父義母慈兄友弟恭子孝。 (偽尙書孔安國傳舜典)</p> <p>(2) 司馬遷 (舜)舉八元、使布五教于四方、父義母慈兄友弟恭子孝。(史記五帝本紀第一)注、殷本紀稍異、</p> <p>(3) 應劭 應劭曰、五教父義母慈兄友弟恭子孝也、 (陳喬樞今文尙書經說攷所引)</p> <p>(4) 鄭玄 鄭玄曰、五品、父母兄弟子也。 (王先謙史記集解所引)</p>
<p>(1) 程伊川 慎微五典、五典克從、堯既命之以位、而舜敬美五常之教、五典謂父子有親・君臣有義・夫婦有別・長幼有序・朋友有信也、五者人倫也。 (伊川經說卷二書解)</p>		<p>(1) 淮南子 百姓不親、五品不愼、契教以君臣之義、父子之親、夫妻之辯、長幼之序。(人間訓)</p> <p>(2) 劉向 百姓不親、五品不愼、契教以君臣之義、父子之親、夫婦之辨、長幼之序。(說苑、貴德)</p>

清	明	宋
<p>(1) 毛奇齡</p> <p>其傳季文子引臧文仲之言，使史克告曰：「高辛氏舉八元，布五教于四方，父義母慈兄友弟恭子孝」謂之五教，而杜預註曰，契作司徒，五教在寬，卽在此八元之中，「是當時五倫，只父母兄弟子五者，……自唐虞夏商，以周之末季，皆只此數，</p> <p>(四書臚言補)</p>		
<p>(1) 焦循</p> <p>孟子深於詩書，所目五教，宜得其真，……司徒五教，宜以孟子定論，未可據左傳以疑孟子也。</p> <p>(孟子正義，滕文公上)</p>	<p>(1) 御製五倫書序</p> <p>(2) 王陽明</p> <p>而其節目，卽舜之命契，所謂父子有親，君臣有義，夫婦有別，長幼有序，朋友有信，五者而已。</p> <p>(傳習錄卷之中答人論學書)</p>	<p>(2) 朱子</p> <p>父子有親，君臣有義，夫婦有別，長幼有序，朋友有信。右五教之目，堯舜使契爲司徒，敬敷五教，卽是也。(白鹿洞書院揭示)</p> <p>(3) 蔡沈</p> <p>五品，父子，君臣，夫婦，長幼，朋友，五者之名位等級也，……五教父子有親，君臣有義，夫婦有別，長幼有序，朋友有信。(書集傳，舜典)</p>

四、二説の論據

然らば夫々の論者は如何なる論據に立ち、或は第一の説に賛し、或は第二の説を是とするのであるか。先づ孟子の説を是とする者の論據を検討するに、其の要點は凡そ次の三項に在る。

一、孟子は詩書に深し。

孟子深於詩書、所目五教、宜得其真、……司徒五教、宜以孟子定論、未可据左傳以疑孟子也。（焦循、前出）

本	邦	(後以治明)
<p>(1) 竹添光鴻 史克以父母兄弟子、說五教……孟子以君臣長幼等、說契之五教、蓋此周代具備之教也、說者或以孟子、破此五教、是顛倒古今者耳。 (左氏會箋、文公十八年)</p>	<p>(2) 蟹江博士 孔子研究、第二篇第七章孔子の倫理說(三四六頁)</p> <p>(3) 宇野博士 支那學研究第一編「儒教の義務論に就いて」(一三四—一三五頁)</p> <p>(4) 瀧川博士 愚按、父母兄弟子、一家之事也、君臣朋友、一國之事也、孟子以周代具備之道、推唐虞之古耳、左傳史記、蓋得古意、(史記考證卷一)</p>	<p>(1) 木村鷹太郎 東洋倫理學史第一編第一章四、(三六頁)</p> <p>(2) 高瀬博士 支那哲學史第一編第二章第七款(一二八頁)</p> <p>(3) 渡邊秀方 支那哲學史概論第一編第三章(二三頁)</p> <p>(4) 加藤博士 斯文第十九編第七號、「支那上代の官制と教育」(六一—七頁)</p>

二、(4) 文献に徴するに古典(易經及論語)に孟子五人倫の目録存す。

易家人彖傳云、父父子子兄弟夫婦夫婦、而家道正、論語顏淵篇、孔子對齊景公曰、君君臣臣父父子子、……序卦傳云、有夫婦、而後有父子、有父子而後有君臣、兌象傳、言朋友講習、則君臣夫婦朋友、與父子兄弟、五者自不可缺一、故趙氏合易論語、而言父父子子君君臣臣夫婦兄弟、又益以朋友貴信也、是爲契之所教、則五教之中、不得偏指父子兄弟、而缺君臣夫婦朋友矣。(焦循、孟子正義滕文公上)

(ロ) 五者を網羅せざるは、言を立つる其の常有るに因る。

家人專以門内言之、故不及君臣朋友、對齊景、切其時事、故僅舉君臣父子、亦立言各有其當、(焦循、同右)

三、堯舜時代には家庭道德の外君臣朋友の關係等も可なりに發達せり。

後の古注の説で左傳に據つてをり、前のは新注の説で、孟子に據つたのであります。後の説は家庭内の徳、即ち父母兄弟の間に限つたもので、道德の發達せる順序から申せば、原始的のものと思はれます。併し二典三謨の記事に據ると、堯舜時代には家庭道德だけでなく、君臣の關係・朋友の交誼などが、可なりに發達してをりましたから、原始的の徳と解せぬ方がよいと思ひます。(加藤博士「斯文第十九編第七號、六一七頁」)

之に反し左傳の説に賛する者の論據を検討するに、其の要點は凡そ左の六項に在る。

一、五品は五種の品目にして、五倫は五種の相互關係とすれば太史克の説從ふべきに似たり。(宇野博士、「儒教の義務論に就いて」二頁)

二、孟子の五倫の名目は孔子以前に絶えて無し。

(イ) 孟子の擧げたる五倫の名目は、孔子以前に絶えて之を見ざることを。(蟹江博士、孔子研究、三四六頁)

(ロ) 人倫を以て君臣父子夫婦昆弟朋友の五となすことは初めて中庸に見え、之を稱して天下の五達道と云へり。孟子の五倫説は即ち之に據る。而して孔子の未だ嘗て言はざる所なり。……孔子にも未だ言はず、況や舜をや。

(宇野博士、「儒教の義務論に就いて」二頁)

三、孟子の説は完全・複雑・具備に過ぐ。

(イ) 竹添光鴻左氏會箋(前出)

(ロ) 左傳の名目は孟子の名目よりも不完全なり。されば堯舜時代の五教は左傳の説の如くなりしが、社會と思想との發達に伴ひて遂に孟子の説の如くに發展せしこと。大戴禮記に曰く、……以下略(蟹江博士、孔子研究三四七頁)

(ハ) 蓋太古草昧の世に在りては、道德は單に家庭間の事に止まり、時勢の推移に由りて漸次複雑を加へ、廣く社會的及び國家的義務を教ふるの必要生ず。是れ予が古の五品五教を解するには太史克の説に従ふべしと云ふ所以なり。(宇野博士、同右、三頁)

(ニ) 瀧川博士、史記考證卷一、(前出)

四、司馬遷の史記及孔傳孔疏等の説は皆左傳に一致す。『即五帝紀述五教、亦無異詞因之、孔安國註虞書慎微五典曰、五典者五常之教、父義母慈兄友弟恭子孝、五者是也』至五品不遜、正義曰、五品即父母兄弟子五者、敬敷五教、正義謂、五教即教之義慈友恭孝五者、云云。(毛奇齡、四書臆言補)

五、中庸の五達道は契の五教に非ず。

(イ) 中庸天下之達道五、以君臣父子昆弟夫婦朋友當之、此自言達道、不言人倫、故夫子重言五者天下之達道、與篇首喜怒哀樂天下之達道並同、彼以性言道、此以教言道、其皆非人倫一也。(毛奇齡、同右)

(ロ) 中庸天下之達道五、君臣也、父子也、夫婦也、昆弟也、朋友之交也、未嘗以五道爲唐虞之五教、(瀧川博士、史記考證卷一)

六、中庸の三德は斷じて書經洪範の三德に非ず。

(前略) 十倫非十義、五道非五常、中庸三德、斷非洪範之三德、此名目得失、所關者大也。(毛奇齡、同右)

五、右の批判

以上の論據を勘考するに、何れも未だ全豹を得ず、第三者をして納得せしむるには不充分であると思ふ。何故か。こゝに批判などとは禮を失する事甚だしく、本意なき事であるが、請ふ暫し論ぜしめよ。

(イ) 孟子論者の論據に就いて

一、の論據は孟子は詩書に深く通ず、故に書經の五典を解するや宜しく其の眞を得べしとする推論であるが、此の推論の可能性を考へて見れば、客觀的に成立せぬと云ふ事は誰にも了解出来る。

二、の論據は左傳論者の二の論據と正に對蹠的立場にあつて互に反駁し合ふものである。一方を是認すれば一方は否定されねばならぬ。「孔子の彝倫說」を研究して見ると、左傳論者の論據は否定せざるを得なくなるので、大體の結論に於て此の論據が正しい。然れども此の論據よりして契の五教は孟子の説に依るべしとする結論を導き出すのは、時の觀念を無視するより來る誤謬である。故に此の論據も最後に於て成立たぬ。

三、の論據は、左傳論者の三の論據と正に對蹠的立場に在つて互に反駁し合ふものである。加藤博士の説は君臣關係の限りに於ては正しく、この點左傳論者の(ハ)の論據は正しくない。(理由別章)然し朋友其の他の關係に於ては二典三謨に限らず、尙書全般を通じて見ても殆ど論及せられてゐないと云つても過言でないから、その逆が成立つ。

之を要するに孟子論者の三論據は一も十分に承服せしむるに足らぬ。是孟子の説を是とするに賛成し難い所以である。

(ロ) 左傳論者の論據に就いて

然らば左傳論者の論據はどうか。

一、の論據は父母兄弟子の個別的なると、父子君臣夫婦長幼朋友の統合的なるとの差別に過ぎず、必ずしも後者に適用出來ぬとは限らない。この點充分とは云へぬ。

二、の論據に就いては前述の通りである。

三、の論據は大體に於て賛成する所であり。特に(ロ)の蟹江博士の論には大賛成である。しかし博士は大戴禮記四代の彝倫説を左傳説を確かむる一證とし、書經康誥の彝倫説を單にその旁證として引用せられたのはどうかと思ふ。自分は康誥の彝倫説を第一の憑據とし、而も大いに考證すべきものと信じ、大戴禮記の四代こそ寧ろその旁證とすべきだと思ふ。兎に角もう一段の考證が望ましい。(ハ)の國家的義務云々の説に至つては賛成出来ぬ。何となれば國家的義務即ち君臣之義は、(ハ)の説の如くんば最も後に出づるものにして當時には無しとせらるるやうである。然し加藤博士も指摘せられた如く、君臣の關係に就いては反證がいくつもある。二典三謨に就いて見てもさうであるが、若し眼を尙書全般に向けるならば、その例枚舉するに遑がない。(引例省略)これをしも看過して、道德發達の順序より斯くあるべしと論斷し、孟子の説を排し、左傳の説に依るべしと云ふ論據とする事には疑義を挿まざるを得ぬ。

四、の論據は五典を解するに史記・孔傳・孔疏の説が皆左傳の説に一致するから、左傳の説を是とすると云ふのであるが、淮南子人間訓、說苑貴德篇等にそれに反する對立説が歴として存在するからには、この論據は成立し得ぬ。

五、の論據は間接證明法を用ひたものであるから、其の字面に現れざる部分を補填して、主張の眞意を忖度するに、恐らくは次の如き論法を用ひんとしたものであらう。

孟子は中庸五達道の説を繼承して五人倫の説を爲せるものなり。五達道は人倫に非ざるを以て契の五教に非ず。故に孟子五人倫の説は契の五教に非ざるべし。

牽強の論據たるを免れぬ。

六、の論據は管子の六親・石碣の六順・王制の七教・禮運の十義・晏嬰の十禮・祭統の十倫を引用したる後に爲された結論であるが、此の結論を導くに論理整はず、其の主旨曖昧を免れぬ。恐らくは、

中庸之三德(知・仁・勇)は斷じて尙書洪範之三德(正直・剛克・柔克)に非ざる如くに、中庸之五達道は斷じて尙書の

五典に非ず。

と云はんとするのであらう。若し然らば論理の不整を指摘せざるを得ぬ。

以上左傳論者の論據とする點を六項に亘り批判したのであるが、如上の論據のみを以てしては、未だ到底吾人をして充分に納得せしむるに足らぬと云ふ結論に到達した。然れども五典を父義母慈兄友弟恭子孝と解し、左傳の説を是とすべきであるとする結論には大賛成である。然らば如何なる論證の過程を経て之を考證し、充分ならざるを補ひてこの結論に到達せんとするか。以上の論據に加ふるに左に提示せんとする考證の方法を以てすれば、可能なる範圍に於ける論證の手續きとしては充分であらうと思ふ。

六、問題決解案

1、康 誥

(A) 解 說

五典の語を以て示された彝倫説の特色は、云ふまでも無く體系的であると云ふ點に在る。此の特色を持つものとして康誥の彝倫説がある。

王曰、封、元惡大憝、矧惟不孝不友、子弗祇服厥父事、大傷厥考心、于父不能字厥子、乃疾厥子、于弟弗念天顯、乃弗克恭厥兄、兄亦不念鞠子哀、大不友于弟、惟弔茲、不于我政人得罪、天惟與我民彝大泯亂、曰、乃其速由文王作罰、刑茲無赦。(康誥)

康誥は尙書中最も信すべき篇目の一であり、此の要旨は、不孝・不字・不恭・不友の四不倫を以て寇攘姦宄の元惡よりも懲むべしと爲し、執政の人をして文王作る所の達教之罰を用ひて速かに此の四民彝を亂る者を刑して赦す事ならしめよとの論たるは言を俟たぬ。文中「天惟與我民彝」とあるを以て民彝の語を用ふ。

こゝに於て康誥の四不倫たる子の不孝・父の不字・弟の不恭・兄の不友に因つて康誥の彝倫説は父子兄弟間の四民彝

説なる事を知り得る。而して孔穎達は正義に於て、母を言はざるは父に同じければなりとて、釋訓を引き、

釋訓云、善父母爲孝、善兄弟爲友、下文不言母、母同於父。(同右、孔疏)

と云ひ、又父に不慈(不字「不慈」と云ひて不義と云はざる所以は、父の不慈には母を兼ねるを現はせばなりとて、

父當言義、而云不慈者、以父母於子并爲慈、因父有愛敬多少、而分之言父義母慈、而由慈以義、故雖義言不慈、且見

父兼母耳。(同右)

と云つてゐる。蓋し文を散すれば父には義母には慈といふべき所を、父に慈と云つて兩者を兼ねたと云ふ議論である。

抑々父は母を兼ねるものと見るのが古來の通例であるが故に、孔穎達の説は是認せらるべきである。こゝに至つて康誥の四民彝説は父母兄弟子間の五民彝説にまで擴大發展せしむるを得べく、五民彝説にまで擴大發展せしむる時、左傳の五教説と合致するに至る。左傳の五教説は舜典の五教(五典)の説明である。舜典の五典(五教)説と康誥の五民彝説(假稱)と左傳の五教説との三者を相互に關聯せしめて考へる時に、康誥の五民彝説は五典の解釋に重要な役割を演ずるものである。この爲にはもう一つ重大なる手續を経ねばならぬ。康誥の文は果して誰の文で何時のものであるかと云ふ問題である。この問題に就きては二つの主張が對立してゐる。一は古注(孔安國、孔穎達等)の説であり、周公が成王之命を以て康叔を敕戒するものとし、二は新注の説(蔡沈等)であり、武王が其の弟康叔を敕戒するものとしてゐる。此の問題に關しては諸橋先生が、經史八論八「周公の居攝を論ず」に於て詳細なる論證の結果、古注の説を是とすべきを明示せられてゐる。故に康誥に由つて、周公攝政時代の彝倫説は、

父慈・子孝・兄友・弟恭

の四民彝説であつた事が明示せられ、父慈を孔疏に従つて、父義母慈の二つに散する時は、

父義・母慈・子孝・兄友・弟恭

の五民彝説となる事が明證せられた譯である。

(B) 結 論

扱此の康誥の彝倫説に依つて如何なる結論が導き出されるか。

舜の、「慎 徽五典、五典克從。」の語は虞舜の治民の績を總叙したものであり、「帝曰、契、百姓不親・五品不遜、汝作司徒、敬敷五教、在寬。」の語はその具體的説明に當る。皋陶謨の、「天叙有典、敕我五典、五惇哉」の語は皋陶が禹に對して謀つた語である。皋陶は舜の臣として禹と比肩せられた名臣であるから、此の語は舜の五典を繼承したものに相異ない。之に偽古文ではあるが、大禹謨の「帝(舜)曰、皋陶……汝作士、明于五刑、以弼五教、云々。」の語と、泰誓の「王曰、今商王受、狎侮五常、荒怠弗敬」の語と、武成の「重民五教、惟食喪祭」の語と、君牙の、「弘敷五典、式和民則。」の語とを併せ考ふる時、五典五教五常なるものは尙書全篇を一貫する政治的教育的道德説である。時代的に見ては、泰誓武成の語は武王の語であり、君牙の語は穆王が君牙に命じた語であるから、舜の時代・武王の時代・穆王の時代を通じた一貫説であり、殊に契も君牙も或は司徒となり、或は大司徒となつて掌つたものである點、頗る關聯性に富む。假令偽古文なるを以て大禹謨・泰誓・武成・君牙を信ぜずとしても、康誥の彝倫説は明かに周公攝政の際に於けるものであり、且つ其の内容は四民彝説、擴大發展せしめて五民彝説となる點に於て、舜典・皋陶謨の五典五教に容易に結び付き得るものと思ふ。又「以經解經」と云ふ解經の正證法より見ても、斯く解するを至當と考へる。よしや舜の時代より周公の際に至る約一千年の距りがあるとしても、五千年を數ふる支那の歴史中、太古草創の時代が大部分を占める一千年であるから、五典五教の如き文化財にはさまで變化なきものと思惟するに於てをやである。而して此の思惟を裏付ける有力なる資料が此處に存在する。即ち周公を去る約五百年(魯僖公三十三年、周襄王二十五年)乃至六百年(魯昭公二十年、周景王二十三年)の後に於てすら、此の康誥に示された父子兄弟間の彝倫説は權威を持つてゐたと思はしめるに足るものがある。左傳僖公三十三年の晉の臼季の語がそれで、臼季は翼の翼缺を晉の文公に推舉せんとして康誥の語を引いて、

康誥曰、父不慈、子不祗、兄不友、弟不共、不相及也。

と云つたのである。又昭公二十年にも苑何忌の語として、

在康誥曰、父子兄弟罪不相及。況在群臣云々。

と引用されてゐる。

2、大戴禮記

大戴禮記四代第六十八（一本第六十九）に、孔子が先王の教を魯の哀公に説いた語として、

天子曰崩、諸侯曰薨、大夫曰卒、士曰不祿、庶人曰死、昭哀、哀愛無失節、是以父慈子孝兄愛弟教、此昔先王之所先施於民也、君而後此、則爲國家失本矣、公曰、善哉、子察教我也。

とある。父慈・子孝・兄愛・弟教、の四つの人倫道德は先王が先づ第一に民に教へたものであるとし、此を後にすれば國家本を失ふとまで強調してゐる。孔子口を開けば先王を稱し、而して其の先王は、堯舜禹湯文武周公に在る事は論を俟たぬ。且つ四代の章は四代の政刑皆法るべきを論じたるものである。四代とは虞夏商周を曰ふとあり、以て當時の彝倫説に關して孔子が言及したものである事は明かである。而して四つの彝倫道德は、父子兄弟の人倫關係に於ては、全く康誥の説と一致し、其の徳目に於ては兄愛・弟教の點に於てのみ異つてゐる。然し兄愛の語は弟を友愛する事は云ふまでもないから、兄友と一致するものであり、弟教の「教」は「恭」と普通であり、又廣雅書局刻大戴禮記解詁には、「敬」に作るを以てすれば、其の恭と一致する内容を持つ事は明かである。斯く論じ來る時に、父慈子孝兄愛弟教は、父慈・子孝・兄友・弟恭と置換へる事が出來、全く康誥の四民彝説と一致し、康誥の旁證となり、五典の内容は、父義母慈兄友弟恭子孝であると推定する事も愈々可能性を増す所以である。

3、統合類型の發生

左傳の五教説は

父義・母慈・兄友・弟恭・子孝。

と云ふ形式を以て説かれて居り、本論文に於ては之を假稱して個別類型の彝倫説と呼ぶ事にしてゐる。孟子の五人倫説は、

父子有親・君臣有義・夫婦有別・長幼有序・朋友有信。

と云ふ形式を以て説かれて居り、之を假稱して統合類型の彝倫説と呼ぶ事にしてゐる。統合類型とは個別類型が簡單化し、父と母と子と一つに統合されて父子となり、兄と弟と一つに統合されて兄弟となつたと云ふ意味である。統合類型が個別類型より發生した事は勿論であるが、その發生の由來を推すに、人類が未開時代を脱して文化が開け行くと共に生活様式は單純より複雑へと進み、個人生活より社會生活・國家生活へと移行して行つた爲に、茲に益々統合類型の發生を助長したものと思はれる。

然らば統合類型の彝倫説が、個別類型の彝倫説よりも後れて發生する事は當然想像し得る事である。その實果して如何。體系の構成を持つた彝倫説を文献上に索むるに、個別類型の彝倫説は、既に(イ)尙書には康誥の彝倫説、父慈・子孝・兄友・弟恭の四民彝倫説があり、(ロ)左傳隱公三年には石碣の彝倫説、君義・臣行・父慈・子孝・兄愛・弟敬の六順説があり、前者は周公攝政の時代であり、後者は石碣が衛の莊公を諫めた語であるから、春秋に入る直前の時代である。之に較べると統合類型の彝倫説は時代がずっと下つて来る。文献上最初に見えた確かなものは、左傳襄公三十一年北宮文子の語、

衛詩曰、威儀棣棣不可選也、言君臣・上下・父子・兄弟・内外大小之皆有威儀也。

である。これは北宮文子が魯の襄公三十一年衛の襄公を相けて楚に行き、楚の令尹子圉の威儀有るを見て、衛公に對へた語であり、君臣父子兄弟に言及してゐる。此の時代は周の景王の三年であり、孔子に僅かに先行するものである。故に五典を解するには、孟子の説の如き統合類型の彝倫説を以てすべからざる事は明かである。

4、天敘有典

皐陶謨に曰く、

天敘有典、勅我五典、五惇哉。

と。此の五典が舜典の五典を繼承する事は明かである。(前述) 最も注目すべきは「天敘有典」の四字である。語は簡單であるが五典の本質を規定した唯一の語である。孔傳には

天次敘人之常性。

と云ひ、孔疏には

天次敘人倫、使有常性。

と云ひ、或は

天敘有典、有此五典、即父義母慈兄友弟恭子孝是也。

と云ひ、蔡傳には

敘者、君臣父子兄弟夫婦朋友之倫敘也。

と云ふ。五典は人之常性、天の所與、天然自然に具有するものと見てゐるのである。皐陶謨の五典が天の次敘するものであれば、舜の五典も亦天の次敘するものたるべく、五典の本質がかく規定せらるれば、此の點より判斷して、五典の徳目に就いて第一説を是とすべきか第二説を是とすべきか、自ら解決せられるものである。

擬父子兄弟は天合であり、君臣・朋友及夫婦は人合(義合と云ふも同じ)であるとするのは古來一般の定論である。こゝに於て、

天敘有典、勅我五典、五惇哉。

とて五典の本質を「天敘」なりと規定した條件に該當するものは父子と兄弟とであらねばならぬ。君臣・朋友・夫婦は

此の條件を満足せしむるものではない。故に五典は父母兄弟子の五倫に對する規範、即ち父義母慈兄友弟恭子孝とする第一説（左傳説）を是とすべく、父子・君臣・夫婦・長幼・朋友の五倫に對する規範、即ち

父子有親・君臣有義・夫婦有別・長幼有序・朋友有信。

とする第二説（孟子説）を非とすべきである。然るに朱子は孟子の説に由る爲に、朱子文集卷之十四、「跋黃仲本朋友説」に於て次の如き窮通の説を爲してゐる。

人之大倫、其列有五、自昔聖賢皆以爲、天之所敍、而非人之所能爲也、然以今考之、則惟父子兄弟爲天屬、而以人合者居其三焉、是則若有可疑者、然夫婦者天屬之所由以續者也、君臣者天屬之所賴以全者也、朋友者天屬之所賴以正者也、是則所以紀綱人道建立人極、不可一日而偏廢、雖或以人而合、其實皆天理之自然、有不得不合者、此其所以以爲天之所敍、而非人之所能爲也。

蓋し、朱子は「則惟父子兄弟爲天屬、而以人合者居其三焉」とて父子兄弟の天合と君臣夫婦朋友の人合とを認めざるべからざるを以て、「自昔聖賢皆以爲天之所敍、而非人之所能爲也」と云ふ事實（天敍有典に相當す）を一應自問し、「是則若有可疑者」と云はざるを得なかつたのである。この解決方法として、夫婦君臣朋友の三者を以て人合なれども天屬の懸る所以なりと強調し、「皆天理之自然、有不得不合者、此其所以爲天之所敍、而非人之所能爲也。」と結論したのである。朱子が此の窮通の論を爲さねばならなかつた所以のものは、五典（五教）を以て孟子の説なりとした結果である。即ち孟子の五人倫説は五典の本質たる「天敍」の條件を満足せしめるものではないからである。翻つて第一説に屬する康誥の彝倫説や左傳の彝倫説は十分に此の條件を満足せしむるのみならず、康誥の「天惟與我民彝」の語は「天敍」の謂ひに外ならぬ。

以上を總括するに、在來の第一説左傳論者の論據に加ふるに、茲に提示した方法を以てすれば、五典の内容はどうし

でも、家庭道德たる

父義・母慈・兄友・弟恭・子孝

であると結論せざるを得ないのである。(以上)